

平成22年 6 月 18 日現在

研究種目： 若手研究 (B)
 研究期間： 2007 ～ 2009
 課題番号： 19720163
 研究課題名 (和文)
 平安期古往来の史学的利用に関する基礎的研究
 研究課題名 (英文)
 A fundamental study on the historiographical use of epistolary correspondences during the Heian period.
 研究代表者
 野田 有紀子 (NODA YUKIKO)
 お茶の水女子大学・教育研究特設センター・リサーチフェロー
 研究者番号： 20447569

研究成果の概要 (和文)：

『明衡往来』など平安期の書状文例集「古往来」は、これまで主に国語国文学・漢文学・教育史分野で研究され、史学的観点で検討されることは少なかった。本研究では「古往来」記載内容を、同時代の古記録・古典文学・儀式書等の記述と比較することにより、史学研究上で活用するための基礎作業を行った。「古往来」には平安貴族社会の日常的・個人的な活動が広範囲にわたり事実に基づき記載され、社会的関係を史学的に分析する上で適した素材であることが確認できた。

研究成果の概要 (英文)：

Studies on epistolary correspondences, collections of letters during Heian period such as *Akihira orai*, have been done in the field of Japanese literature, classical Chinese literature and Education history so far while there have been fewer studies on them from a historical standpoint. This study compared the descriptions of correspondences with those found in old records, classic literature and ceremony books of the same period for the use of historical research. The study clarified that epistolary correspondences included the factual descriptions of a wide range of daily personal activities in the society of Heian aristocracy and that they are the materials suitable for the historical analysis of social relationships during Heian period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	600,000	3,800,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：古代史

キーワード：古往来、日本史、古代史、平安貴族社会、書状

1. 研究開始当初の背景

近年、日本古代史の分野では、儀式の次第や参加者を分析することなどにより、社会的関係を究明する研究が盛んに行なわれている。こうした研究過程で、行列に関わる史料として何度か活用を試みたのが書状の文例集「古往来」である。

しかしながら研究論文で「古往来」を扱う過程で大きな問題点の存在に気づかされた。それは平安期「古往来」は従来おもに国語国文学、漢文学、教育史の観点から研究が進められてきている反面、「古往来」の内容を史学的な観点で研究・活用することは本格的に行なわれていないことである。

その原因としては、以下の2点が考えられる。(1) 主に国語国文学や教育史で研究が進められているため、史学的な研究の余地が見出せない。(2) 「古往来」の記載が当時の史実をどの程度反映しているのかあまり明らかにされていないため、記載内容をそのまま史料として利用することが躊躇されているのである。

2. 研究の目的

「古往来」の内容を史学的に利用するためにはその前作業として、行列関係以外の内容を含む「古往来」各条に関しても、記載のひとつひとつを史学的に検討した上で、史学研究にどの程度活用できる史料かを考察することが不可欠かつ緊急な課題であると考えられる。

そこで本研究では、(1) 『高山寺本古往来』『明衡往来』といった平安期～鎌倉期の「古往来」を、当時の古記録・儀式書・書状および古典文学・和歌の記載と比較検討することによって、歴史的事実をどの程度反映しているかを明らかにする。(2) そして各「古往来」の成立年代を内容面から推定し、(3) さらに「古往来」各条の内容を史学的に解釈して史学研究上の位置づけや意義を指摘する。

以上の作業により、日本古代史の分野において「古往来」の内容を史学的な研究材料として活用する基盤が形成される。それにより平安貴族社会の社会的関係をより広範囲かつ重層的に究明できるであろう。

3. 研究の方法

(1) 研究初年度

「古往来」ならびに関連史料（平安期の既刊行分）の収集・整理を行なう。

① 『高山寺本古往来』『明衡往来』『貴嶺問答』

『和泉往来』『東山往来』『釈氏往来』『十二月往来』といった平安期～鎌倉期の「古往来」の校本・研究書を購入・収集。これら「古往来」各条文をリストアップし、内容を分析。事項・要素ごとに分ける。

（校本：高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺本古往来・表白集』、石川謙編『日本教科書大系 往来編』第一巻古往来（一）

（二）、三保忠夫・三保サト子編『雲州往来 享禄本索引篇研究と総索引』、三保サト子著『寺院文化圏と古往来の研究』（笠間書院、2003年）など）

② 平安期（既刊行分）の古記録・儀式書・古典文学・和歌集などを収集し、そのなかから「古往来」各条の記述と関連する記事を抽出して、整理する。

（利用資料：『御堂関白記』『小右記』『権記』『左経記』『春記』『中右記』『後二条師通記』『殿暦』『兵範記』『山槐記』『台記』『西宮記』『北山抄』『江家次第』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『落窪物語』『蜻蛉日記』『更級日記』『大鏡』『栄花物語』/勅撰集、私家集/『群書類従』、『平安遺文』など）

(2) 研究2年度

関連史料（～鎌倉中期の既刊行分、および平安期の未刊行分）を収集し、最終年度に「古往来」と関連史料のデータベースを作成するための整理を行なう。

① 前年度に作業が完了しなかった分の平安期関連史料（既刊行分）を収集・整理。その後、鎌倉中期まで（既刊行分）の古記録・古典文学・和歌集を収集。そのなかから「古往来」各条の記述と関連する記事を抽出して整理する。

（利用資料：『玉葉』『明月記』『民経記』『猪隈関白記』/『徒然草』『たまきはる』/勅撰集・ならびに私家集）

② 平安期の文献・文書・書状（未刊行分）について、「古往来」関連史料を収集・整理。購入できる写真は購入し（三条家本北山抄裏文書、九条家本延喜式裏文書など）、その他は東京大学史料編纂所などで、写真帳・影写本・マイクロフィルム等による史料調査を行なう。

③ 「古往来」各条の内容に関連するおもな先行研究を調査。日本古代史研究上、「古往来」の記載がどのような研究に活用できるかを提示する。

(3) 研究最終年度

研究初年度～2年度に収集・整理した「古往来」と関連史料をまとめる。その際、①「古往来」の記述がどの時期のどのような史実を反映したものかを指摘。②「古往来」は日本古代史研究上、どのような利用価値があるのを考える。③今後の日本古代史における「古往来」研究の有り方や方法を探る。

4. 研究成果

(1) 平成 19 年度

研究 1 年目にあたる本年度は、『高山寺古往来』『明衡往来』『貴嶺往来』『和泉往来』など古往来に関する校本と研究書をおおよそ収集・購入した。また古往来と比較・対照すべき平安期の古記録・古典文学・儀式書・和歌集などの史料についても大部分の収集が完了した。

また平安貴族社会の社会的関係を探るために、古往来を用いた研究と発表を行った。「平安貴族社会における祭装束の分配と作製」(国際日本学コンソーシアム〈日本学研究の現在と未来：国際的・学際的なネットワークの構築と活用〉第 2 分科「日本文学・日本文化」、2007 年 12 月、於・お茶の水女子大学)では、石清水臨時祭、賀茂祭、春日祭などに用いられた祭装束は、平安貴族社会におけるさまざまな日常的な社会的関係に依存して分配・申請され、作製・調進された。こうした手続きが毎年あらたに繰り返されることにより、平安貴族社会における社会的関係が再確認・強化されたことが分かった。「平安貴族社会における扇と社会的関係」(フランス共同ゼミ〈パリ・ディドロ(第 7)大学とお茶の水女子大学：日本学の新たな構築の試み〉、2008 年 1 月、於・コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス・パリ市))では、賀茂祭で斎王や女房が手にする扇は、天皇・上皇・摂関や殿上人などの日常的な社会的関係に依存して作製・調進された。こうした手続きが毎年繰り返されることにより、それらの社会的関係が再確認・強化された。「賀茂祭の扇」は貴族社会をより強固に結びつける役割を果たしたことが明らかになった。ともに内外の参加者から貴重な意見を得、また論文として『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 19 年度活動報告書』シンポジウム編・海外研修事業編(2008 年 3 月)に発表した。

さらに 9 月に中国・杭州で開催された「遣隋使・遣唐使 1400 周年記念国際シンポジウム〈中日文化交流の源流〉」で「唐代宮人に関する一考察」を発表したおり、中国の古往来というべき「書儀」についての情報を得ることができた。

(2) 平成 20 年度

研究 2 年目にあたる本年度は、平安期の古往来および古記録・古典文学・儀式書・和歌集などの史料を分析し、さらに中国の書儀(書状模範文例集)・書状の分析を開始して、日本古代における古往来の史学的利用に関する研究を進めた。

まず『明衡往来』をはじめとする平安期古往来のなかから、貴族間で交わされた「招待状」を収集し、貴族社会の交遊空間について考察した。その結果、こうした交遊空間においては漢詩・和歌・蹴鞠・管絃といった「能」を有することにより、従来の社会的範疇を超えた新たな関係を結び、維持することが可能であったことが分かった。この成果は「平安貴族の招待状—書状にみる交遊空間—」(第 3 回国際日本学コンソーシアム「食・もてなし・家族」歴史学部会)、2008 年 12 月、於お茶の水女子大学)として口頭報告し、さらに研究論文「平安貴族の招待状—古往来にみる交遊空間—」(『人文科学研究』5 号、2009 年)に発表した。

また本年度は日本の古往来や書状の様式・内容に強い影響を及ぼしたとされる中国の書状模範文例集「書儀」との比較研究も開始した。1 月にはフランス国立図書館旧館(パリ市)で敦煌ペリオ文書「朋友書儀」を直接調査する機会を得、その作成過程・書写のあり方から、「書儀」が唐代辺境の官人層にも広く日常的・実用的に利用されていた実態を確認することができた。その成果は「フランス国立図書館所蔵敦煌ペリオ文書『朋友書儀』調査報告」(大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 20 年度活動報告書・海外教育派遣事業編)にまとめた。

(3) 平成 21 年度

研究最終年度にあたる本年度は、平安期古往来に掲載された内容と、平安貴族社会で実際に交わされた書状との関係について考察するため、延暦寺青蓮房旧蔵『不空三蔵表制集』『灌頂阿闍梨宣旨官牒』『諸仏菩薩積義』紙背文書として伝来した藤原為房妻の書状(11 世紀後半執筆)を検討した。為房妻はこれらの書状を通じて、妻として五位蔵人の夫の公務を補佐し、また夫や子のために延暦寺僧との関係を強化・維持することにつとめ、また家の荘園管理にも関与している。同紙背文書として残された夫為房の書状と比べると、漢文と仮名という違いはあるものの、内容・目的には大きな違いはない。さらに古往来『明衡往来』収載書状との対応関係についても、贈答時の送状・礼状や、年若い子息の代理での依頼状など、多数の共通点が見いだせる。すなわち古往来の内容は当時の貴族社会で実際に取り交わされた書状の内容を色

濃く反映しており、それは男性官人に限らず貴族女性の書状についても当てはまると推測され、古往来は平安貴族社会の社会的関係を分析するのに適した素材であることが確かめられたのである。

以上の成果のうち一部は「平安主婦の書状生活—藤原為房妻の書状を中心に—」（お茶の水女子大学とUSC共同ゼミ「グローバル日本古代史をめざして」、2009年8月19日、於お茶の水女子大学）として口頭報告し、さらに同タイトルの研究論文として『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書・学内教育事業編』（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、2010年3月31日刊行）に発表した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

01. 野田 有紀子「労働空間としての後宮—医疾令女医条を中心に—」（『人文科学研究』6巻、査読有、2010年、13～26p）

02. 野田 有紀子「平安主婦の書状生活—藤原為房妻の書状を中心に—」（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書・学内教育事業編』、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、査読無、2010年、83～85p）

03. 野田 有紀子「日唐後宮空間比較研究—「禮空間」的空間、「労働空間」的空間—」（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書・海外教育派遣事業編』、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、査読無、2010年、290～294p）

04. 野田 有紀子「唐代後宮における禮と法—『大唐開元禮』『大唐元陵儀注』を中心に—」（『中國史研究』57巻、査読無、2009年、41～55p）

05. 野田 有紀子「平安貴族の招待状—古往来にみる交遊空間—」（『人文科学研究』巻5、査読有、2009年、13～26p）

06. 野田 有紀子「平安貴族の招待状—書状にみる交遊空間—」（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成20年度活動報告書・学内教育事業編』、査読無、2009年、204～211p）

07. 野田 有紀子「フランス国立図書館所蔵敦煌ペリオド文書『朋友書儀』調査報告」（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成20年度活動報告書・海外教育派遣事業編』、査読無、2009年、322～326p）

08. 金子修一、江川式部、稲田奈津子、金子由紀、河内春人、鈴木桂、野田有紀子、榊佳子、牧飛鳥、小倉久美子、小幡みちる「《大唐元陵儀注》概説」（『文史』2008年第4輯（中国）、査読無、2008年、153～167p）

09. 野田 有紀子「唐代宮人に関する一考察—日唐後宮比較研究にむけて—」（『総合女性史研究』巻25、査読有、2008年、1～20p）

金子 修一、野田 有紀子、牧 飛鳥「大唐元陵儀注試釈(8)」（『國學院大學大学院紀要文学研究科』巻39、査読無、2008年、25～41p）

10. 野田 有紀子「平安貴族社会における扇と社会的関係」（『お茶の水女子大学 大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成19年度活動報告書 海外研修事業編』、査読無、2008年、292～298p）

11. 野田 有紀子「平安貴族社会における祭装束の分配と作製」（『お茶の水女子大学 大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成19年度活動報告書 シンポジウム編』、査読無、2008年、139～147p）

〔学会発表〕（計8件）

01. 野田 有紀子「日唐後宮空間比較研究—「禮空間」的空間、「労働空間」的空間—」（お茶の水女子大学と台湾大学共同ゼミ「日中文化交流史—日唐令比較研究」研討會、2009年11月1日、台湾台北市・國科會人文學研究中心）

02. 野田 有紀子「日唐後宮空間比較研究—「禮空間」的空間、「労働空間」的空間—」（浙江工商大学日本文化研究所・関西大学文化交流学教育研究拠点共催「東アジア文化交流—學術論争の止揚をめざして」国際シンポジウム、2009年9月19日、中国杭州市・浙江工商大学日本文化研究所）

03. 野田 有紀子「平安主婦の書状生活—藤原為房妻の書状を中心に—」（お茶の水女子大学とUSC共同ゼミ「グローバル日本古代史をめざして」、2009年8月19日、お茶の水女子大学）

04. 野田 有紀子「平安貴族の招待状—書状にみる交遊空間—」（第3回国際日本学コンソーシアム「食・もてなし・家族」歴史学部会、2008年12月15日、お茶の水女子大学）

05. 野田 有紀子「唐代後宮における禮と法—『大唐開元禮』『大唐元陵儀注』を中心に—」（中國史學會第9回國際學術大會“通過法律看中國歷史”國際學術研討會、2008年9月26日、韓国・清州市・國立忠北大學校）

06. 野田 有紀子「平安貴族社会における扇と社会的関係」（フランス共同ゼミ「パリ・ディドロ（第7）大学とお茶の水女子大学：日本学の新たな構築の試み」、2008年1月14

日、フランス・パリ、コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所)

07. 野田 有紀子「平安貴族社会における祭装束の分配と作製」(第2回国際日本学コンソーシアム「日本学研究の現在と未来：国際的・学際的なネットワークの構築と活用」第2分科「日本文学・日本文化」、2007年12月19日、お茶の水女子大学)

08. 野田 有紀子「唐代宮人に関する一考察—日唐後宮比較研究にむけて—」(遣隋使・遣唐使1400周年記念国際シンポジウム「中日文化交流の源流」、2007年9月15日、中国・杭州・浙江工商大学日本文化研究所)

〔図書〕(計2件)

01. 総合女性史研究会『時代を生きた女たち新・日本女性通史』(2010年、386p、(分担)248~251p)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野田 有紀子 (NODA YUKIKO)
お茶の水女子大学・教育研究特設センター・
リサーチフェロー
研究者番号： 20447569

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：